



Photo by Hiroshi Takasugi

“木のはなし”

園長 高杉 洋史

秋に日本保育学会と九州保育研究会の合同研修会がありました。行橋市にあるきらきら星幼稚園での保育参観に参加し、黒田園長から園庭の木々は40年前の開園時に自分で植えられたことをうかがいました。

ケヤキやクヌギが大木になり、四季折々の姿で園児を楽しませています。ご自分で植えられた木々の成長が幼稚園の成長を表していると感じました。Better late than never. (遅くてもしなよりよい)ということわざがあります。ゆりの樹幼稚園も植栽を見直す刺激になりました。玄海東幼稚園時代からの大きなケヤキや植えて8年目になるユリノキに腐葉土と肥料をあげ、子どもたちが植えたドングリから発芽した苗を3本移植しました。

こうして植物に目をやると、幼稚園の海側にセンダンの大木があることを思い出しました。付近は草に覆われていたので、草刈りしてみると、なかなか素敵な散歩道が出来上がりました。午後3時ごろから草刈りを始めても5時には暗くなり始めるので、なかなかはかどらず、まだ半分は枯れ草がありますが、連日こつこつ草刈りをしていると、なんと玄海東小学校の海側にもっと素敵な森の道を見つけました。ドイツやデンマークには森の幼稚園があり、雨の日でも森の中で遊ぶ話を数年前読んだ時、魅力的な保育に夢を馳せたものです。日本の里山も美しく、そのような中で子どもたちと自然を満喫したいと思っていました。今回、ゆりの樹幼稚園のすぐ近くにこんもりと茂ったトロの森のような場所を見つけとてもうれしいです。

少し視野を広げ、いつもよりも少しがんばると新しい夢がかなうものです。井の中の蛙でいたかもしれない自分を反省しているところです。

木を育てることと子育ては似ています。一日一日の成長は目立ちませんが、何年か経ったとき大きく育っています。その日を夢見ていつもより少し広い視野で子どもたちを見守る大人でいようと思います